

150人参加、好事例など学ぶ

ICT活用工事報告会開く

北陸戦略研究会

北陸地方整備局と北陸管内の業界団体で構成する北陸ICT戦略研究会は20日、富山市の富山県民会館で「19年度ICT活用工事報告会」を開催



ICTの導入・拡大へ活用メリットを紹介した報告会=20日、富山市内

した。西部ブロック(富山・石川・長野・岐阜)の建設業者や自治体などから150人が参加。ICT活用のメリット(好事例)や施工上の留意点・課題を学んだ。

冒頭、北陸地方整備局の本間政幸施工企画課長が、「直轄工事のICT活用は6割まで拡大してきた。本日報告する好事例を現場で共有し、ICTの導入・拡大、現場の生産性向上につなげてほしい」とあいさつ。

報告会では直轄工事の事例で、南建設が施工

した「H30能越道 洲衛高架橋下部その3工事」、北川ヒューテックが施工の「頼成地区舗装工事」の取組を紹介。自治体の事例では、石川県発注で本建設工業が施工した「一ノ谷通常砂防工事(堰堤工)、長野県が発注しフクザワコーポレーションが施工の「平成30年度防災安全交付金(通常砂防)(緊急対策事業)」・平成31年度国補通常砂防(事業間連携)(緊急対策事業)合併工事」の内容が紹介された。整備局による次年度に向けての情報提供もあった。

終了後、ICTトップランナーの講師による、北陸地域の経営者を対象とした初のICT活用工事講習会も開かれた。